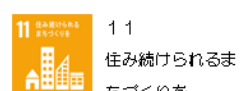
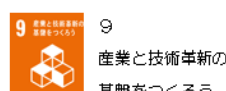
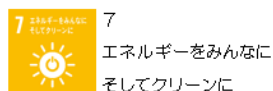
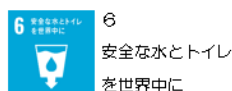
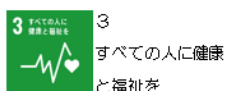


<原稿案（第6章）>

第6章 10カ年の事業計画

基本理念	基本方針	施策体系			
		小施策	事業 (※:一般会計事業)	指標	目標
環境により配慮し環境施設づくり整備・推進 災害に強いまちづくりの推進・構築 次世代につなげる良質な水環境を目指して	1	(1)住環境の改善			
		① 公共用水域の水質改善	污水管整備	下水道普及率	普及率100%
			污水管接続普及啓発・合併処理浄化槽設置の促進	水洗化率向上	啓発促進活動の実施
		② 油脂による污水管の閉塞防止	油脂による污水管の閉塞防止	年間管路清掃延長	2035年度清掃延長:2.80km以内
		(2)河川の水質向上への貢献			
		① 下水処理水の水質向上	下水処理水の水質向上	高効率散気装置導入率	導入率100%(2033年度完了予定)
		(3)地球温暖化対策と資源の循環利用			
		① 温室効果ガスの削減	温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量	排出量削減 (2030年度:2013年度比46%削減)
		② エネルギー・資源の有効利用	資源の循環利用	再資源化率	再資源化率100%
	2	(1)浸水対策の推進			
		① 浸水対策	浸水被害軽減対策	浸水被害軽減対策箇所	5箇所完了
			※ 雨水浸透設備設置助成事業	雨水浸透設備設置補助	年10件
			※ 豪雨前のパトロールの実施	道路冠水のリスク低減	パトロールの実施
			※ 水路などの維持管理の推進	修繕計画に基づく計画的な維持管理	計画的な維持管理の実施
			※ 雨水調整池の維持管理の推進	管理計画に基づく効率的な維持管理	計画に基づいた維持管理
			※ 流域関係者との流域治水に関する連携・協力の推進	流域関係者との連携・協力の推進(国・流域自治体・市民・NPO法人・企業)	連携・協力の推進
			※ 情報発信を通じた浸水対策の周知の実施	情報発信による浸水対策の周知	浸水対策の周知の実施
			下水道事業継続計画(水害編)の運用管理及び訓練の実施	被災時の事業継続	計画の運用・訓練の実施
		(2)地震対策の推進			
		① 管渠・処理施設の耐震化	污水管の耐震化	污水管の耐震化率	震化率100%(2029年度完了予定)
			雨水マンホールの耐震化	雨水マンホールの耐震化率	耐震化率100%(2029年度完了予定)
			成瀬クリーンセンターの耐震化	成瀬クリーンセンターの耐震化率	耐震化率 96.4%
			鶴見川クリーンセンターの耐震化	鶴見川クリーンセンターの耐震化率	耐震化率 79.4%
			鶴川ポンプ場の耐震化	鶴川ポンプ場の耐震化率	耐震化率 100%(2034年度完了予定)
		② 地震対策	下水道事業継続計画(地震編)の運用管理及び訓練の実施	被災時の事業継続	計画の運用・訓練の実施
	3	(1)効率的・効果的な維持管理の推進			
		① 状態監視保全の維持管理	管渠の点検・調査の実施	下水道管の点検・調査延長	点検・調査延長586km
			下水処理施設の詳細調査	下水処理施設の詳細調査件数	年10件以上
		② 污水管への浸入水対策	污水管への浸入水対策の実施	誤接続箇所の改善指導率	改善指導率 100%
		③ 地理情報システムを用いた維持管理情報の一元管理	地理情報システムを用いた維持管理情報の一元管理	効率的な維持管理	維持管理の実施
		④ 民間活力の導入	民間のノウハウの活用	新たな担い手の活用	新たな事業形態や運用方法の検討・実施
		(2)計画的な改築更新			
		① 「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新	管さよの改築更新	改築更新の実施	污水管工事延長:15.0km 雨水管工事延長:13.4km
			下水処理場・ポンプ場の改築更新	改築更新の実施	下水処理場・ポンプ場の改築更新
		(3)持続可能な下水道財政基盤の確立			
		① 資産の有効活用	資産の有効活用	下水道資産の有効活用	有効活用の実施

SDGs (Sustainable Development Goals): 「持続可能な開発目標」 下水道部の事業は17の目標のうち10の目標達成に貢献します。



<原稿案（第6章）>

「町田市下水道事業経営戦略(2026年度～2035年度)」での 取組み内容	本編 掲載ページ	担当課	SDGsの17の目標との関連 														
			3	6	7	9	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
事業計画区域内での污水管整備		下水道整備課	3	6		9	11	12		14	15						
污水管接続普及啓発・合併処理浄化槽設置の促進		下水道整備課	3	6		9	11	12		14	15						
グリーストラップの適正な維持管理方法の周知		下水道管理課	3	6		9	11	12		14	15		17				
既存施設への高効率散気装置の導入		水再生センター	3	6		9	11	12		14	15						
省エネルギー型機器(各施設照明のLED化や高効率機器)の導入		水再生センター	3	6	7	9	11	12	13		15						
下水処理場から発生するすべての産業廃棄物の再資源化率100%の維持及び下水汚泥等の肥料化の検討		水再生センター	3	6	7	9	11	12	13		15		17				
雨水管理総合計画に基づく雨水管整備による効果的な浸水被害軽減対策		下水道整備課	3			9	11		13		15						
雨水浸透設備事業補助金制度の促進		下水道管理課	3	6		9	11		13		15		17				
豪雨前の事前点検・パトロールの実施及び適切なパトロールのためのパトロール箇所の見直し		下水道部全課 (下水道管理課)	3	6		9	11		13		15		17				
水路修繕計画の策定及び計画的な修繕の実施		下水道管理課	3	6		9	11	12		14	15						
市が管理する雨水調整池について管理計画を策定及び効率的かつ効果的な維持管理		下水道管理課	3	6		9	11	12		14	15						
関係者と連携し流域治水に関する課題や対応策の検討及び境川の流域関係自治体と連携した河川管理者へ河川整備の促進		下水道経営総務課	3	6		9	11		13		15		17				
雨水出水浸水想定区域図の作成・情報発信及び豪雨が予想される際の防災メールの配信等浸水対策の周知		下水道部全課 (下水道経営総務課)	3	6		9	11		13		15		17				
町田市下水道事業継続計画(下水道BCP)(水害編)の運用・訓練の実施		下水道部全課 (下水道経営総務課)	3	6		9	11		13		15		17				
「町田市下水道総合地震対策計画」及び「上下水道耐震化計画」に基づいた污水管の耐震化の実施		下水道整備課	3	6		9	11		13	14							
「町田市下水道総合地震対策計画」及び「上下水道耐震化計画」に基づいた雨水マンホールの耐震化の実施		下水道整備課	3	6		9	11		13								
「町田市下水道総合地震対策計画」及び「上下水道耐震化計画」に基づいた下水処理棟(地下構造物)の耐震化工事の実施		水再生センター	3	6		9	11		13	14							
「町田市下水道総合地震対策計画」及び「上下水道耐震化計画」に基づいた耐震化及び非常用発電設備の更新工事の実施		水再生センター	3	6		9	11		13	14							
「町田市下水道総合地震対策計画」及び「上下水道耐震化計画」に基づいた耐震化及び非常用発電設備の更新工事の実施		水再生センター	3	6		9	11		13	14							
町田市下水道事業継続計画(下水道BCP)(地震編)の運用・訓練の実施		下水道部全課 (下水道経営総務課)	3	6		9	11	12	13		15		17				
「町田市ストックマネジメント計画」に基づき策定した第3期点検・調査計画において、リスクの高い管渠から優先した点検・調査(スクリーニング)の実施		下水道管理課	3	6		9	11	12	13		15						
重要性に応じた下水処理場、ポンプ場の設備状態の詳細調査及び計画的な改築更新・修繕の実施		水再生センター	3	6	7	9	11	12	13	14	15						
浸入水の多い処理区分におけるTVカメラや送風調査などによる詳細調査の実施、調査結果に基づいた計画的な修繕及び誤接続箇所の改善指導の実施		下水道部全課 (下水道管理課)	3	6		9	11		13		15						
過去の維持管理情報の電子化及び維持管理情報を含む下水道施設の情報をGISにて一元管理することによる効率的かつ効果的な維持管理の実施		下水道管理課	3	6		9	11	12		14	15		17				
新たな事業形態や運営方法の検討・実施		下水道部全課 (下水道経営総務課)	3	6	7	9	11	12	13	14	15		17				
「町田市ストックマネジメント計画」に基づいた污水管、雨水管の計画的な改築更新の実施		下水道整備課	3	6		9	11		13	14	15						
「町田市ストックマネジメント計画」に基づいた成瀬クリーンセンター、鶴見川クリーンセンター及び鶴見川ポンプ場の改築更新の実施		水再生センター	3	6	7	9	11	12	13	14	15						
下水道資産を有効活用している事例についての評価・検証の実施及びその成果を基にした新たな事例の検討		下水道部全課 (下水道経営総務課)	3	6	7	9	11	12	13	14	15		17				



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう

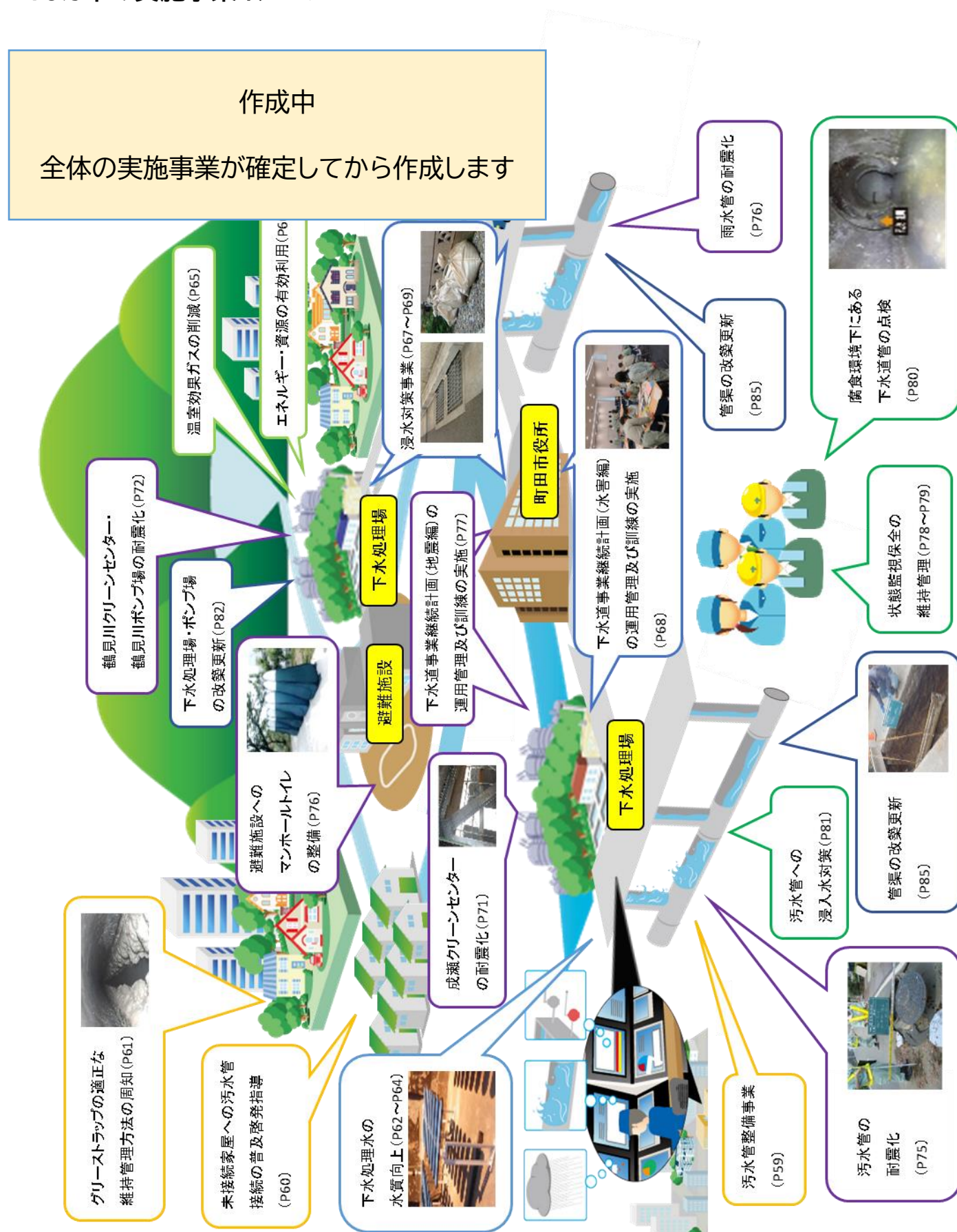


15 陸の豊かさを守ろう



17 パートナリシップで目標を達成しよう

10カ年の実施事業イメージ



町田市下水道ビジョンで掲げた3つの基本方針の実現に向けて事業を実施します。

1. 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進

(1) 住環境の改善

① 公共用水域の水質改善

1) 污水管整備

当市では1964年度から下水道事業に着手し、住環境の改善、河川の水質向上を目指して事業を進め、2024年度末には下水道人口普及率が99.1%に達しました。

下水道事業計画に基づき、市街化区域における都市計画道路未整備箇所、私道などへの污水管整備を進めるとともに、市街化調整区域においては地域性を踏まえた污水管整備を進めることで、下水道人口普及率100%を目指します。

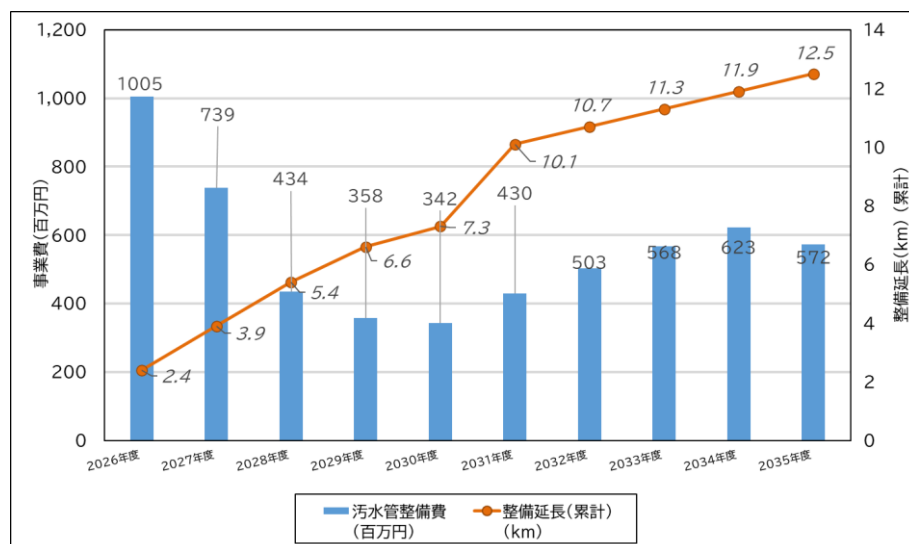


図 6-1 污水管整備延長と年度別事業費

2) 污水管接続普及啓発・合併処理浄化槽設置の促進

污水管整備済区域における接続普及啓発を実施するとともに、下水道事業計画区域外においては合併処理浄化槽設置促進を図ることで、水洗化率向上を目指します。

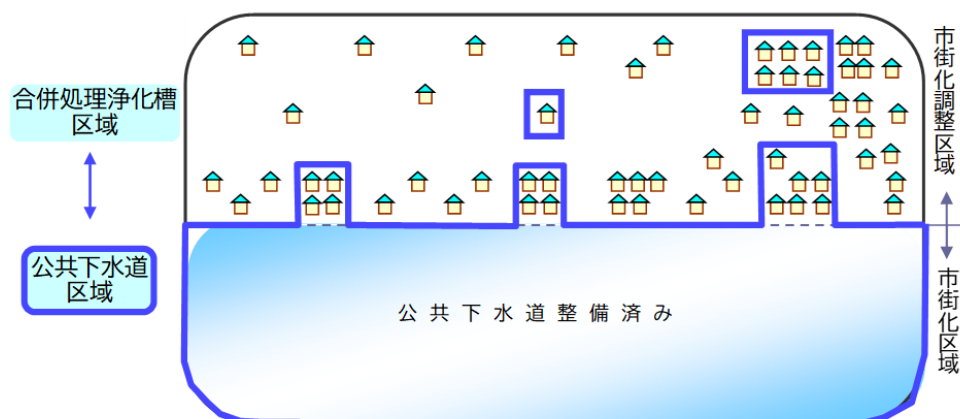


図 6-2 公共下水道と合併浄化槽との区分けイメージ図

② 油脂による污水管の閉塞防止

1) 油脂による污水管の閉塞防止

飲食店などがグリーストラップ*の適正な利用をしていないことで、油脂が污水管に流出し、管が閉塞して下水道の利用に支障をきたすことがあります。

油脂の流出による污水管の閉塞を防ぐために飲食店などを訪問し、グリーストラップの点検、清掃などの適正な維持管理方法を周知し、油脂を起因とした詰まりによる管清掃延長を減らします。

表 6-1 管清掃延長と管清掃費用

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
管清掃延長 (km)	3.16	3.12	3.08	3.04	3.00	2.96	2.92	2.88	2.84	2.80	29.80
管清掃費用 (百万円)	8.05	7.95	7.85	7.74	7.64	7.54	7.44	7.34	7.23	7.13	75.91

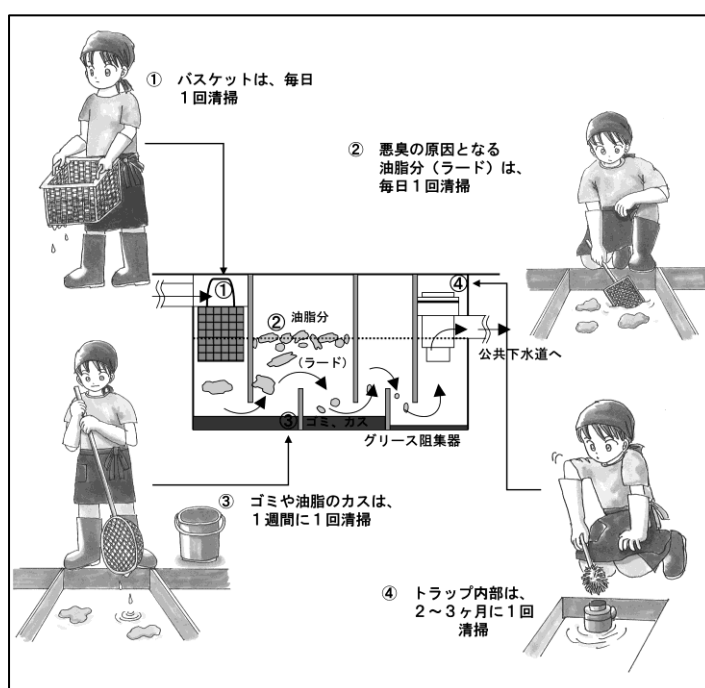


図 6-3 グリーストラップの構造

油脂



図 6-4 油脂がたまった下水道管の内部

（2）河川の水質向上への貢献

① 下水処理水の水質向上

1) 下水処理水の水質向上

当市の下水処理場の処理水は、成瀬クリーンセンターで処理した水は恩田川へ、鶴見川クリーンセンターで処理した水は鶴見川へそれぞれ放流され、これらの水は東京湾へ流れ込みます。下水道の整備により、河川の水質は向上しているものの、東京湾などの閉鎖性水域では、依然として富栄養化による赤潮が発生しており、その原因となる窒素*、りん*を削減することが求められています。

下水中の窒素とりんを効果的に処理するための高度処理施設を成瀬クリーンセンターでは2009年から、鶴見川クリーンセンターでは2019年から導入しています。既存施設についても改築にあわせて高度処理施設を順次導入する計画としていますが、既存施設の耐用年数に至っていないことや多額の建設費が必要となることから、導入には長い期間が必要となります。

そこで、改築までの間、水質を向上させるために既存施設に高効率散気装置を導入します。

表 6-2 高効率散気装置

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
高効率散気装置導入率(%)	67.0	83.0	89.0	89.0	89.0	89.0	94.0	100.0	100.0	100.0



図 6-5 成瀬クリーンセンターの高効率散気装置

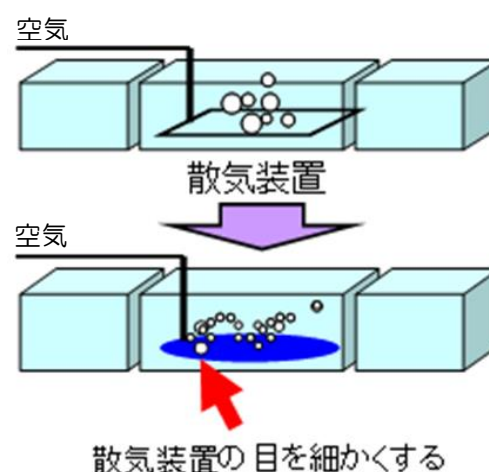


図 6-6 高効率散気装置導入前後のイメージ

出典：国土交通省ホームページ

※ 高効率散気装置とは・・・

下水処理に必要な微生物を活かすため、エアレーション(水に空気(酸素)を溶かすこと)をする必要があります。高効率散気装置は通常の散気装置より泡を小さくすることで、空気(酸素)を水に溶けやすくし、少ない空気(酸素)で微生物に必要な酸素量を確保することができます。

（3）地球温暖化対策と資源の循環利用

① 温室効果ガスの削減

1) 温室効果ガス排出量の削減

下水道事業においては、汚水処理や汚泥*の焼却過程で多くの温室効果ガスを排出しているため、その量を把握し、適切な排出抑制対策を講じることにより、地球温暖化対策の推進に寄与することが求められています。

当市では、2022年1月に環境先進都市「ゼロカーボンシティまちだ」を宣言し、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルを目指し、2030年度における温室効果ガス削減目標を、2013年度比で46%減としています。

この目標を達成するため、下水処理場では、汚泥の高温焼却や次世代型の焼却炉の導入、また再生可能エネルギー発電（風力）や町田市バイオエネルギーセンターでのごみ焼却発電（自己託送）による電力を導入し、エネルギー使用の合理化を積極的に図るとともに、低炭素電力を使用し、温室効果ガス排出量のさらなる削減に努めていきます。

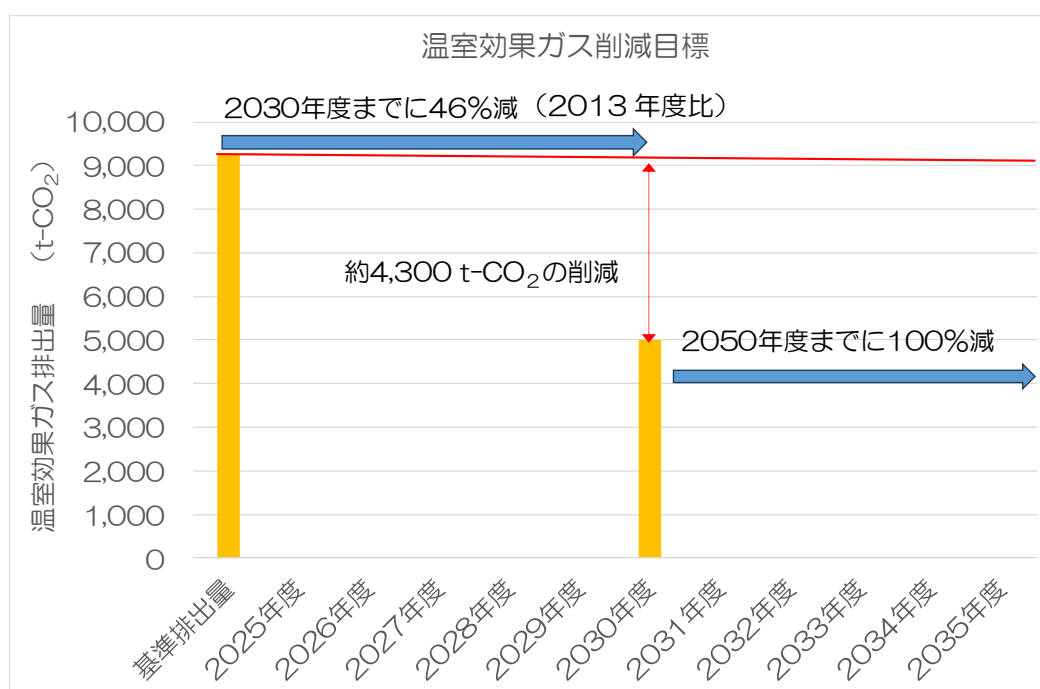


図 6-7 排出量からの削減率グラフ

② エネルギー・資源の有効活用

1) 資源の循環利用

両処理場で発生する産業廃棄物の再資源化率向上に努めた結果、2024年度末に再資源化率100%を達成しました。今後も再資源化率100%を継続していけるよう、産業廃棄物受け入れ先の更なる安定確保に努めるとともに、下水汚泥の新たな再資源化方法として、肥料化についても検討を進めていきます。

表 6-3 再資源化率

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
再資源化率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

2.災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築

（1）浸水対策の推進

浸水被害の軽減の取組みとして、雨水管整備などのハード対策*と豪雨前のパトロールなどのソフト対策*を総合的に進めています。効果的な浸水対策を実施していくため、2025 年度に策定した「町田市公共下水道全体計画書(雨水管理総合計画)」に基づき、浸水対策を進めていきます。



図 6-8 浸水対策の概要(イメージ)

<原稿案（第6章）>

1) 浸水対策

1) 浸水被害軽減対策

浸水履歴の変動などによる対策箇所の見直しを必要に応じて検討し、実状に即した雨水管整備工事等の浸水対策を実施します。

表 6-4 浸水対策箇所数と事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
完了箇所 (箇所)	-	2	-	1	1	-	-	-	1	-	5
事業費 (百万円)	183	401	684	486	451	450	442	753	791	537	5,178



(大口径推進管:内径 2000mm)



(大型ボックスカルバート:内寸 2500mm×1500mm)

図 6-9 浸水対策として行う雨水管整備工事

<原稿案（第6章）>

2) 雨水浸透設備事業補助

田畑や山林が減り、地中に浸透する雨水の量が減っているため、大雨の際には大量の雨水がそのまま川や下水道に流れ込むことにより、洪水や浸水の危険性が高くなっています。

個人住宅に対する雨水浸透設備の設置を促進するために、雨水浸透設備設置事業補助金制度を行っています。これにより、個人住宅に対する雨水浸透設備の設置を促進し、雨水の河川への流出を抑制することで、浸水被害の防止及び水環境の保全に努めています。

表 6-5 雨水浸透設備設置補助件数

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
雨水浸透設備設置補助件数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10



図6-10 雨水浸透設備

3) 豪雨前のパトロールの実施

台風の接近等による豪雨に備え、過去に被害が生じた箇所や危険予想箇所等について、道路部と協力して市内の排水施設の事前点検パトロールを実施しています。道路側溝や水路にあるスクリーンのごみや落ち葉の除去を行うことで浸水の発生を防止します。



図 6-11 事前点検パトロールによるスクリーン清掃前後

4) 水路*などの維持管理の推進

市内の水路(全長約 188km)について、位置や管理範囲、構造の概略の基本的な情報を明記した管理図書を 2022 年度に作成し、窓口での問い合わせに迅速に対応しています。

また、市内のコンクリート系構造の水路(約 36km)について、水路修繕計画を策定し、計画に基づいた修繕を行うことで、効率的かつ効果的な維持管理を推進します。

5) 雨水調整池の維持管理の推進

近年多発している集中豪雨による洪水、道路冠水、住宅への浸水被害を抑制するためには短時間で大量の雨水が河川に流れ込まないように、一時的に雨水を貯留する雨水調整池の適正な維持管理が求められています。

市では124箇所の雨水調整池を管理しており、雨水調整機能を維持するための点検や土砂清掃、草刈りなどを行っています。しかし、すべての雨水調整池の土砂清掃や草刈りを実施するには多大な費用と時間を要します。そこで優先順位や管理基準を定めた管理計画を2025年度に策定し、計画に基づいた管理を行うことで、効率的かつ効果的な維持管理を推進します。



図 6-12 雨水調整池の草刈り作業前後

6) 流域関係者との流域治水に関する連携・協力の推進

当市には、一級河川の鶴見川と二級河川の境川があります。鶴見川流域には鶴見川を本流として、恩田川・真光寺川・麻生川などの支流があります。

鶴見川と境川の流域では、それぞれ「鶴見川流域水協議会」と「境川流域総合治水対策協議会」が設置されています。これらの協議会は、流域治水に関する課題や解決策を検討するため、河川管理者や流域自治体と連携を図り、流域全体の治水安全度*の向上を目指す取り組みが進められています。

また、当市としては、休耕田による調整池機能の整備、雨水貯留浸透施設の整備、緑地の保全等の取組みや河川管理者が主催する河川に関する地元町内会等との意見交換会に参加するなど連携を図っています。



図6-13 鶴見川と境川の管理区間

<原稿案（第6章）>

7) 下水道事業継続計画(水害編)の運用管理及び訓練の実施

河川氾濫などの災害時においても一定の下水道機能を確保し、下水道施設被害による社会的影響を最小限にするため、2021年3月に「町田市下水道事業継続計画(下水道BCP)(水害編)」を策定しました。下水道BCM部会を中心に同計画の継続的な見直しや訓練を実施し、実効性を高めるよう努めています。



図 6-14 止水板設置訓練の様子

8) 市民等への情報発信を通じた浸水対策の周知の実施

雨水出水浸水想定区域図*を作成・公表し、情報発信を通じてその周知を図ることで、市民等が浸水対策への備えや内水浸水発生時の円滑かつ迅速な避難を確保することを促します。

また、豪雨が予想される際、防災課を通じて防災メールの配信を行うなど他部署と連携し、自助意識の向上を図ります。

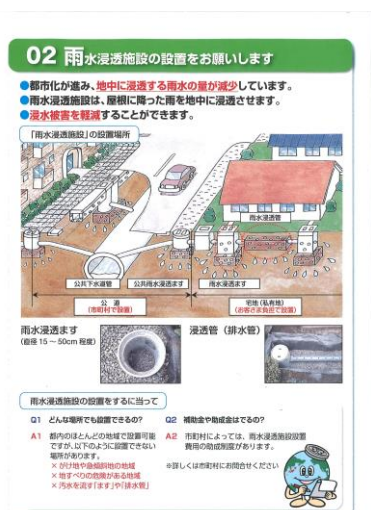


図 6-15 市民等への情報発信(パンフレットの配布や市庁舎電光掲示板に掲出)

（2）地震対策の推進

① 管渠・処理施設の耐震化

大規模地震により、下水道施設が機能を失うと生活衛生環境が悪化する可能性があることに加え、液状化によるマンホールの浮上が発生すると緊急車両等の通行に大きな影響を与えます。

当市では、2024 年度に策定した「町田市下水道総合地震対策計画(第Ⅳ期)2025～2029 年度」、「町田市上下水道耐震化計画(上下水道)」に基づき、下水処理場・ポンプ場及び重要な污水管・雨水マンホールなどについて耐震化を進めます。

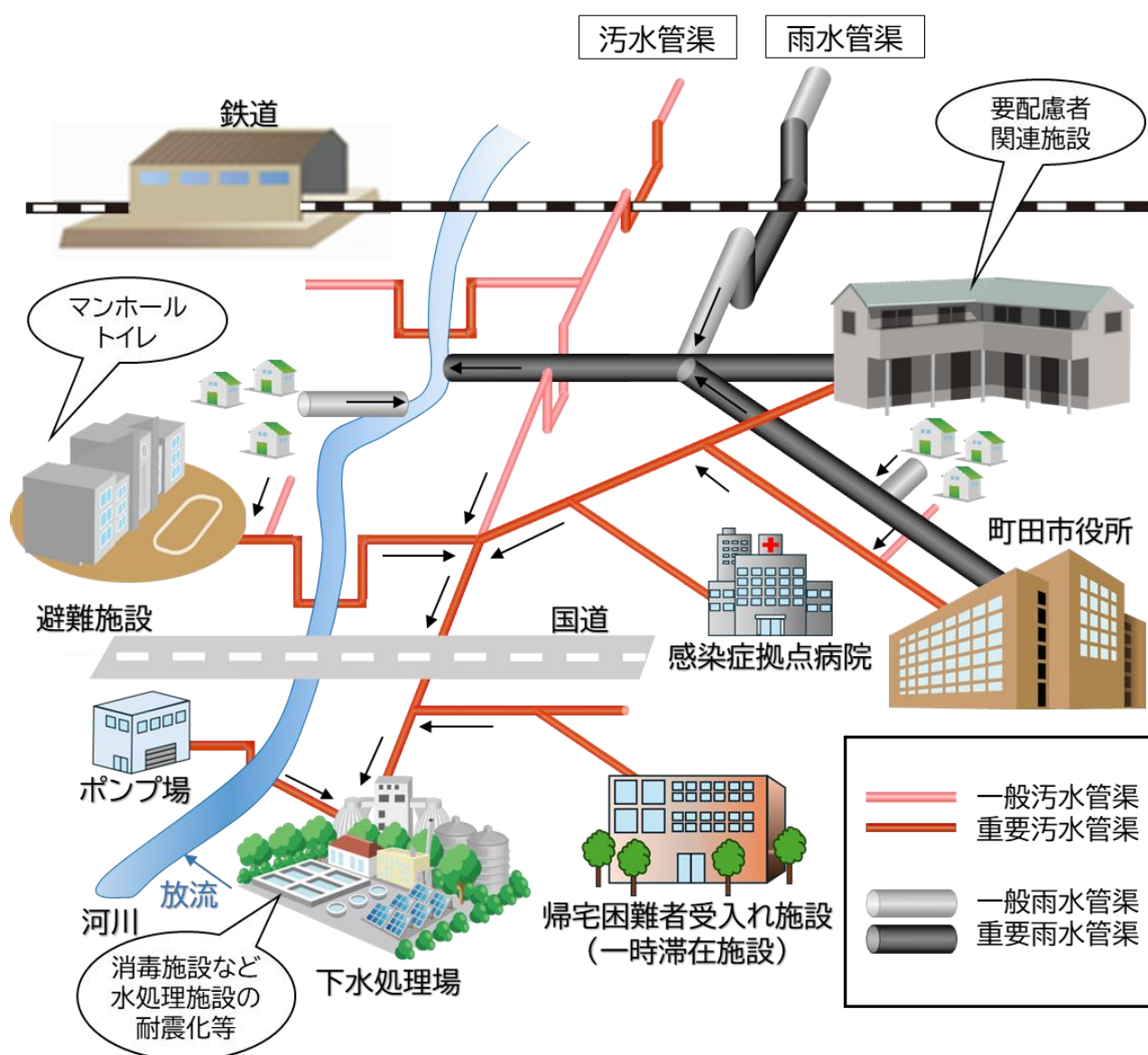


図 6-16 当市の地震対策の概要(イメージ)

1) 汚水管の耐震化

重要な幹線等*のうち、鶴川ポンプ場から鶴見川クリーンセンターへの圧送管や液状化発生が予測される地域に布設された汚水管について、耐震化工事を行い、2029 年度までに完了します。

表 6-6 汚水管の耐震化工事の事業費

<汚水管>

年度	2026	2027	2028	2029	合計
事業費 (百万円)	51	44	501	488	1,084
耐震化率 (%)	97.6	97.6	98.8	100	-

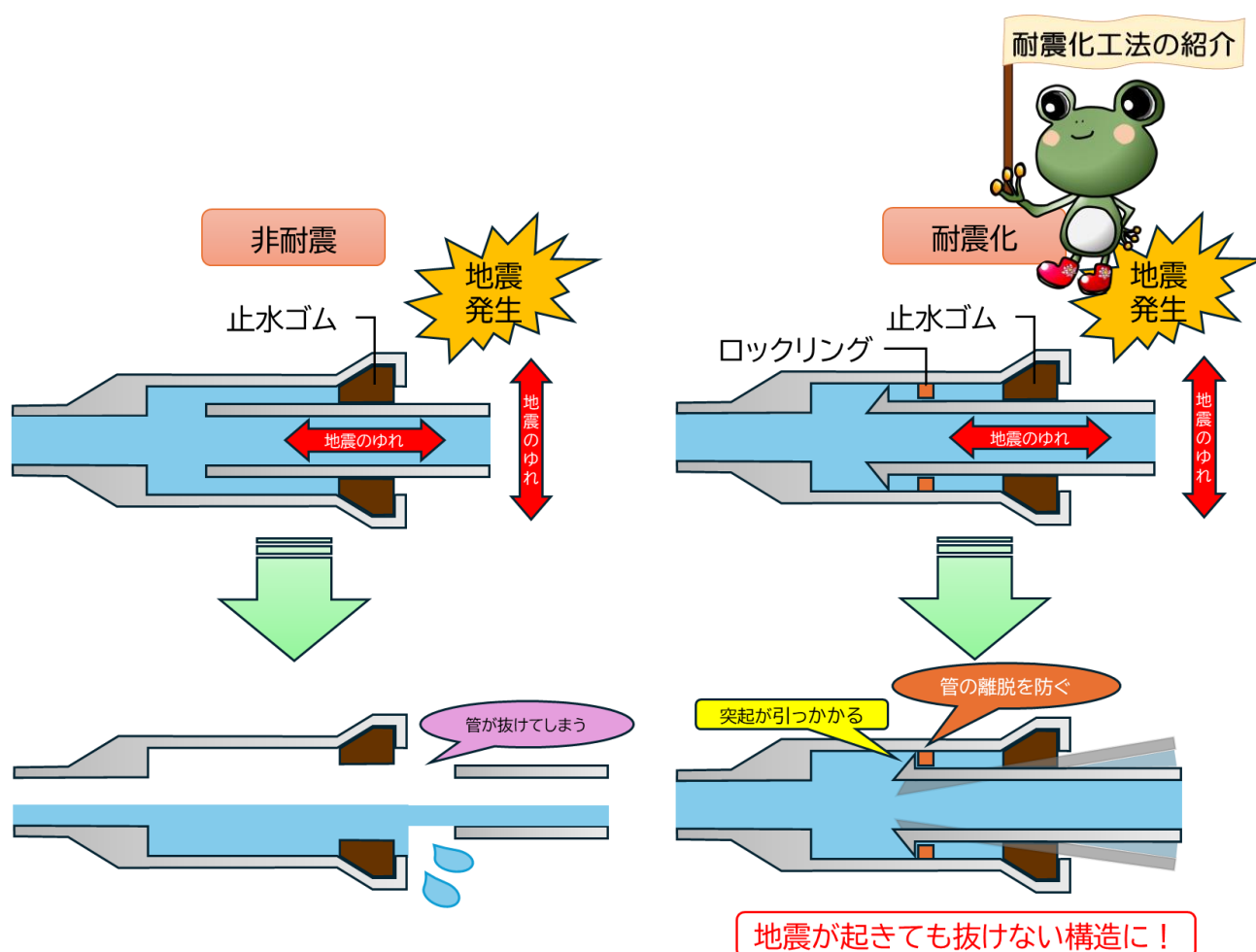


図 6-17 圧送管(圧力をかけて汚水を送る管)の地震対策例

2) 雨水マンホールの耐震化

重要な幹線等*のうち、液状化発生が予測される地域に布設された雨水マンホールについて、耐震化工事を行い、2029年度までに完了します。

表 6-7 雨水管の耐震化工事の事業費と耐震化率

<雨水マンホール>

年度	2026	2027	2028	2029	合計
事業費 (百万円)	19	194	202	198	613
耐震化率 (%)	95.1	96.7	98.3	100	-



図 6-18 液状化によるマンホール浮上状況

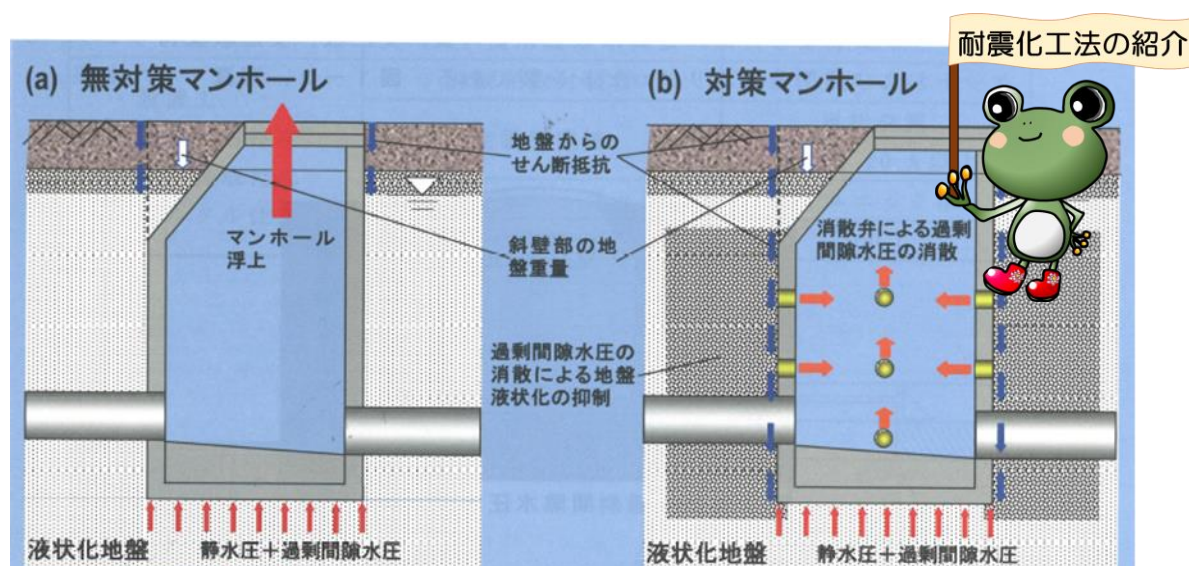


図 6-19 マンホール液状化対策例(1)

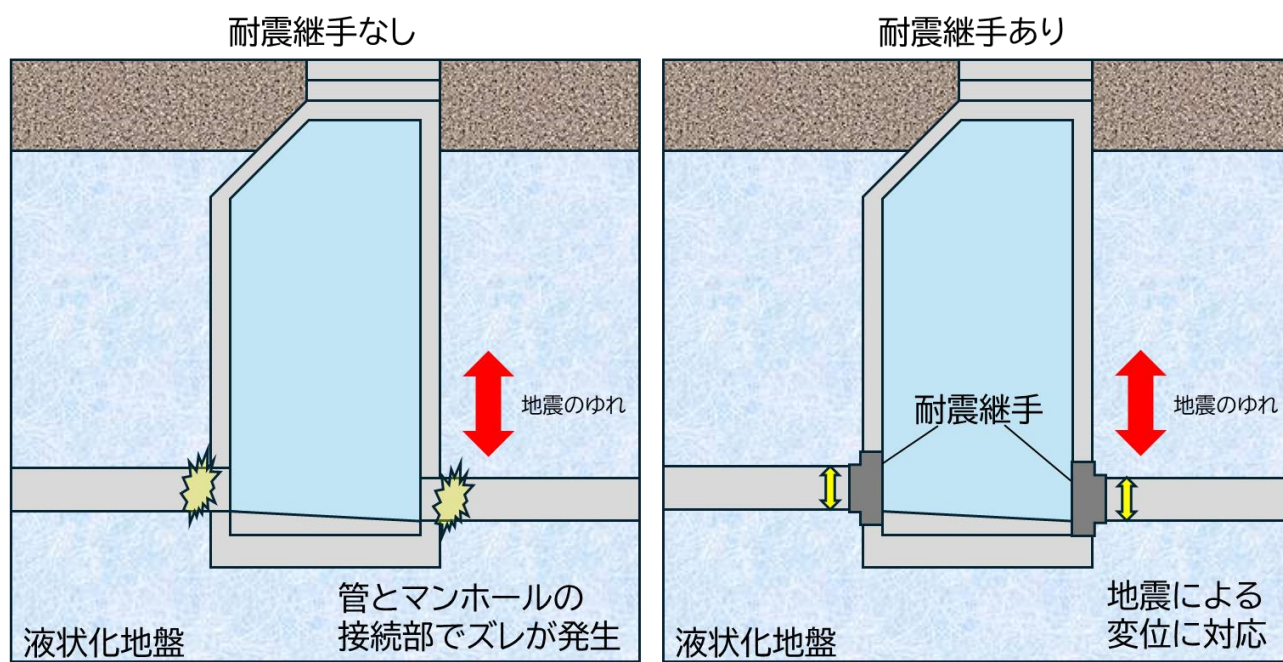


図 6-20 マンホール液状化対策例(2)

3) 成瀬クリーンセンターの耐震化

現在の成瀬クリーンセンターの耐震化対象施設の総延べ床面積に対する耐震化率は、81.5%です。2037年度を目途に耐震化が完了する予定で工事を進めます。

また、耐震化に加え、地震災害時の減災対策を実施します。最初沈殿池～消毒施設をつなぐ簡易処理ルートを構築し、反応タンク、最終沈殿池が被災して使用が不可能になった場合でも、沈殿、消毒など、最低限の処理場運用ができるよう整備を行います。



図6-21 耐震補強工事中の建物(写真左)及び耐震化工事完了後の建物(写真右)

表6-8 成瀬クリーンセンター耐震化工事の事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	69	420	528	208	85	85	88	260	183	240	2,166
耐震化率 (%)	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	94.0	94.0	96.4	-

<原稿案（第6章）>

4) 鶴見川クリーンセンターの耐震化

現在の鶴見川クリーンセンターの耐震化対象施設の総延べ床面積に対する耐震化率は 21.9%です。2037 年度を目途に耐震化が完了する予定です。また、老朽化した非常用発電設備の更新工事を行います。地震災害時の減災対策として最終沈殿池が被災して使用が不可能になった場合でも、沈殿、消毒など、最低限の処理場運用ができるよう整備をおこなっています。

また、老朽化した非常用発電設備の更新工事を行います。地震等による停電時も一定程度の時間、設備を運用できるように万全な備えを進めていきます。

表6-9 鶴見川クリーンセンターの耐震化工事の事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	108	203	344	500	0	561	704	86	87	202	2,795
耐震化率 (%)	21.9	21.9	21.9	44.6	44.6	44.6	79.4	79.4	79.4	79.4	-

5) 鶴川ポンプ場の耐震化

現在の鶴川ポンプ場は耐震化工事に未着手です。2034 年度を目途に耐震化が完了する予定です。

また、老朽化した非常用発電設備の更新工事を行います。地震等による停電時も一定程度の時間、設備を運用できるように万全な備えを進めていきます。

表6-10 鶴川ポンプ場の耐震化工事の事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	24	227	0	0	0	0	0	120	200	0	571
耐震化率 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	-

<原稿案（第6章）>

表6-11 下水処理場・鶴川ポンプ場の主な地震対策工事

年度			2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
町田市下水道総合地震対策計画／ 上下水道耐震化計画			町田市下水道総合地震対策計画（第Ⅳ期） 上下水道耐震化計画				上下水道耐震化計画（次期計画）					
成瀬 クリーンセン ター	No.	耐震化率（％）	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	94.0	94.0	96.4
	耐成-1	水処理棟1系	耐震工事 （最初沈殿池）						耐震工事 （最終沈殿池他）			
		水処理棟2系			耐震工事 （最初沈殿池）						耐震工事 （最終沈殿池他）	
		水処理棟3系					耐震工事 （最初沈殿池）					
		水処理棟1～3系 最終沈殿池他	簡易放流施設設置工事		耐震診断 （最終沈殿池他）							
鶴見川 クリーンセン ター	No.	耐震化率（％）	21.9	21.9	21.9	44.6	44.6	44.6	79.4	79.4	79.4	79.4
	耐鶴-1	沈砂池管理棟	耐震診断					耐震工事				
	耐鶴-2	水処理棟										耐震工事
	耐鶴-3	污泥処理棟	耐震診断		耐震工事							
	耐鶴-4	焼却炉棟			耐震工事							
	耐鶴-5	塩素混和池							耐震工事			
	耐鶴-6	非常用発電設備			更新工事							
鶴川ポンプ場	No.	耐震化率（％）	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
	耐ボ-1	ポンプ棟	耐震診断							耐震工事		
	耐ボ-2	非常用発電設備	更新工事									

※耐震化率（％）＝（耐震化済みの延べ床面積）／（耐震化対象建物の総延べ床面積）×100

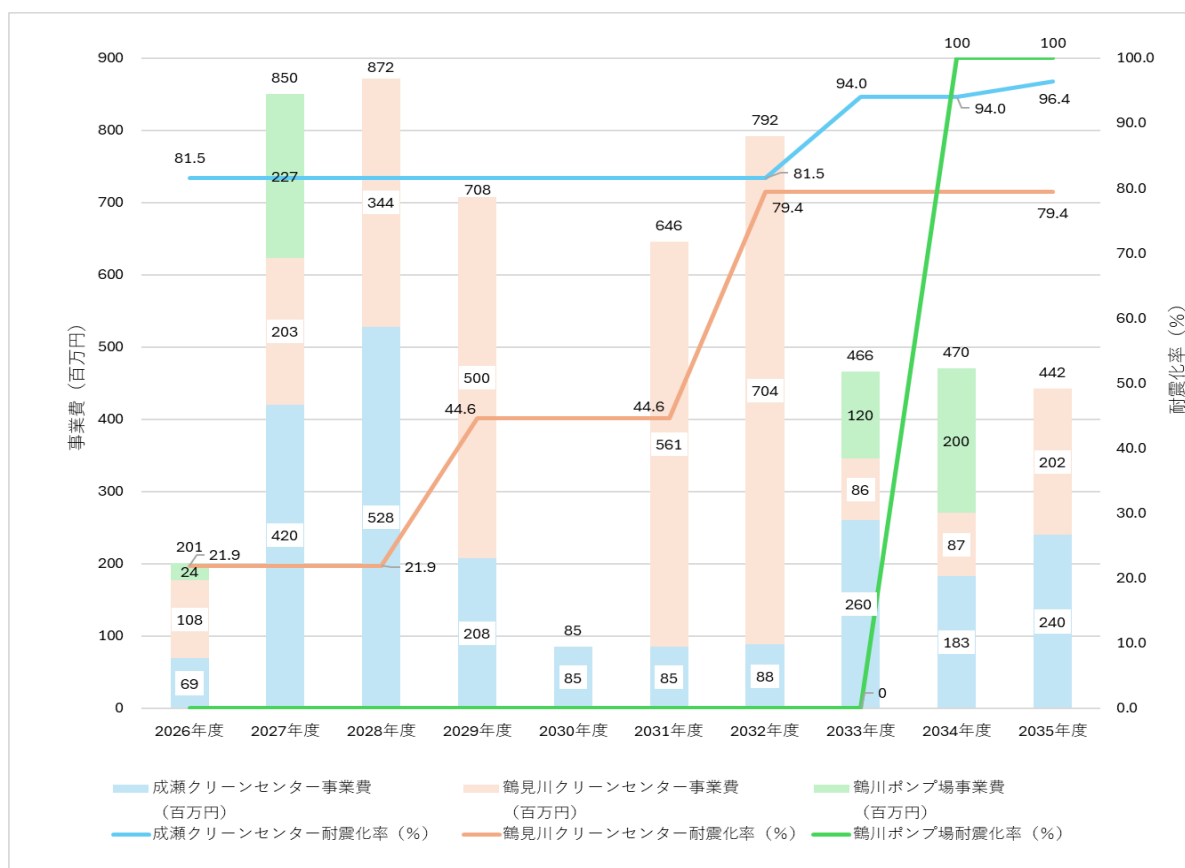


図6-22 成瀬クリーンセンター・鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の耐震化事業費と耐震化率

<原稿案（第6章）>

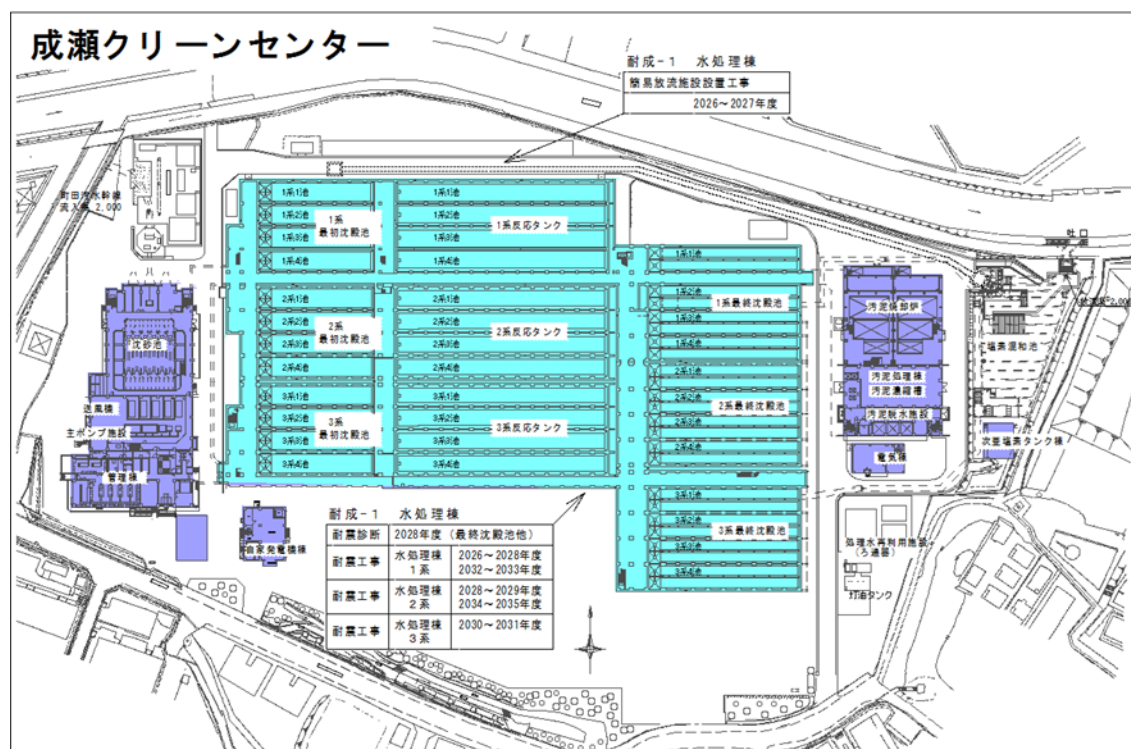


図6-23 成瀬クリーンセンターの主な地震対策工事実施箇所

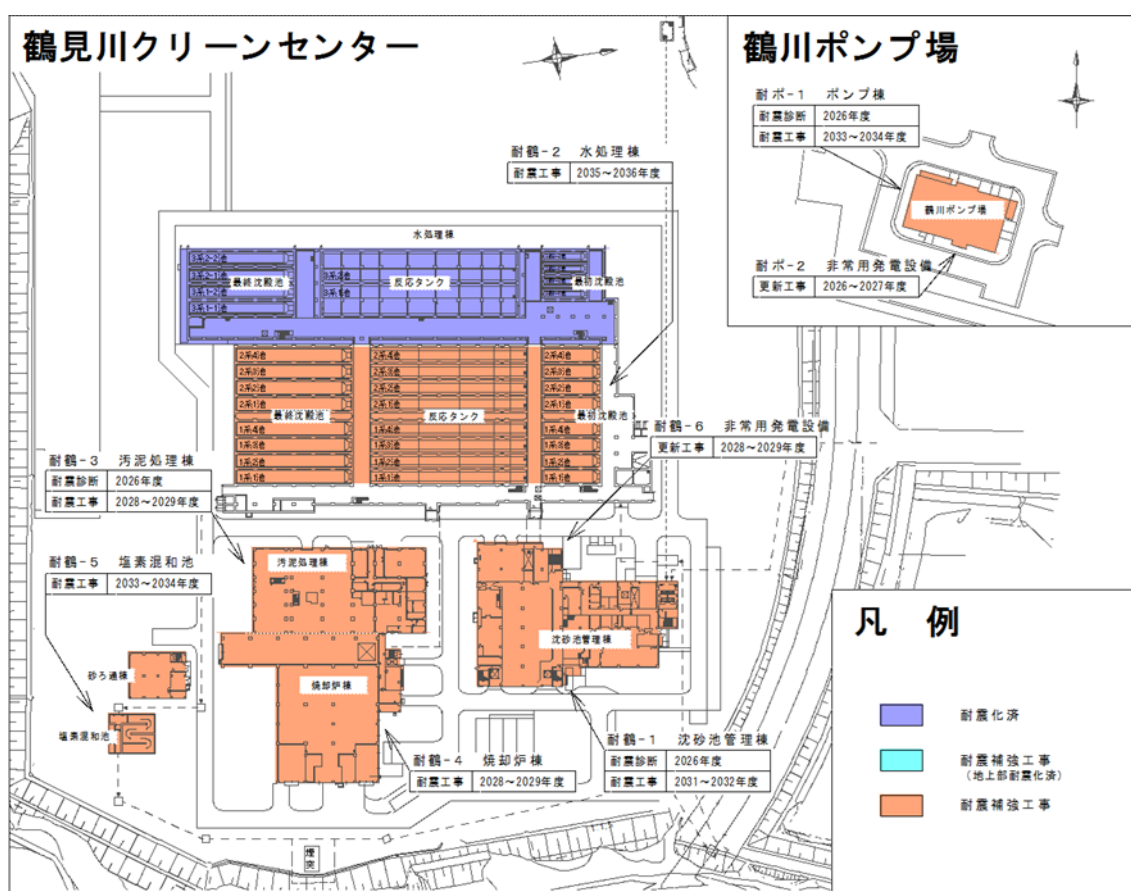


図6-24 鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の主な地震対策工事実施箇所

② 地震対策

1) 下水道事業継続計画(地震編)の運用管理及び訓練の実施

地震による影響によって下水道機能が低下した場合であっても、下水道業務を実施・継続し、早期に復旧させることを目的に「町田市下水道事業継続計画(下水道 BCP)」を策定し、2015 年度から運用しています。

同時に、下水道 BCM 部会を設置し、下水道 BCM 部会を中心に、計画の実効性を高めるため、定期的に訓練を実施しています。

3. 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入

長期的な視点で当市の膨大な下水道施設(ストック)の老朽化の進展状況を予測し、リスク評価などの手法で優先順位を付けて施設の点検・調査を行い、その結果を評価・分析した上で、修繕や改築更新を実施していきます。

下水道施設(ストック)全体を計画的かつ効率的に管理していくため、2022年度に「町田市ストックマネジメント計画」を策定しています。今後も最大5ヵ年ごとの計画を策定し、施設の点検・調査及び修繕・改築更新などを実施していきます。ここでは、下水処理場、管渠などの「(1) 効率的・効果的な維持管理の推進」及び「(2) 計画的な改築更新」について具体的な取組みを示しています。

なお、本計画に位置付けられた施設の点検・調査、改築更新は「下水道ストックマネジメント支援制度」(国土交通省)により、社会資本整備総合交付金(国庫補助金)の交付対象事業となるものです。

(1) 効率的・効果的な維持管理の推進

① 状態監視保全の維持管理

1) 管渠の点検・調査の実施

2025年3月に「町田市下水道管施設資産管理第3期調査実施計画」および「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針の見直しを行い、点検・調査計画を策定しました。(P.〇〇参照)

管渠の設置時期や設置箇所などから優先順位を設定し、2026～2035年度の10年間で586kmの「面的」な点検・調査(スクリーニング)を実施します。

また、2025年1月に埼玉県八潮市で発生した道路陥没を受け、町田市独自の緊急点検(約59km)と、国からの要請による全国特別重点調査(約13km)を実施しました。今後は全国的な動向や国の要請を注視し、これらの点検調査結果を次期計画の見直し時の点検や調査の優先順位設定に反映させる予定です。

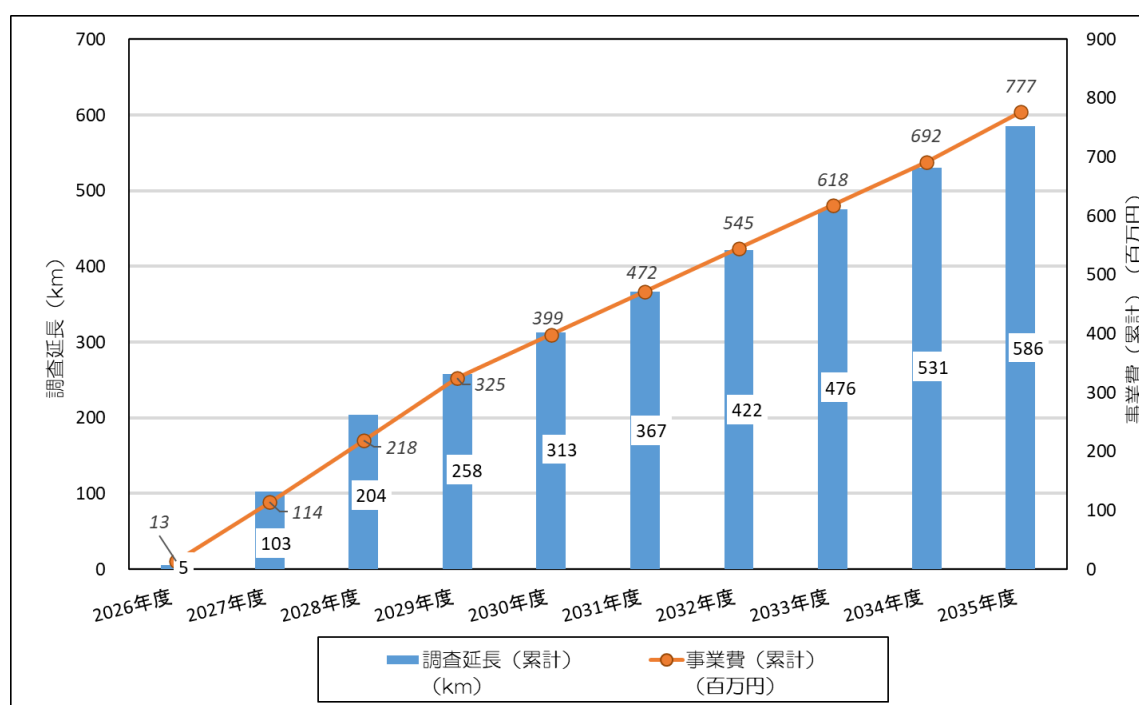


図 6-25 管渠の調査延長と事業費



図 6-26 スクリーニング調査の状況(写真左)及び破損状況のイメージ(写真右)

2) 下水処理施設の詳細調査

下水処理場・ポンプ場の各設備状態について重要度の高いものから詳細調査を実施しています。計画的な修繕・改築更新の実施につなげることで、緊急で発生する大規模な修繕費用の抑制に努めています。2025 年度末における状態監視保全*の対象資産は、中分類単位として、成瀬クリーンセンターは 13 分類、鶴見川クリーンセンターは 11 分類、鶴川ポンプ場は 5 分類になります。

表6-12 下水処理場・ポンプ場の中分類単位の詳細調査件数

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
詳細調査 (件数)	10 件 以上	10 件 以上	10 件 以上	10 件 以上	10 件 以上	10 件 以上	10 件 以上	10 件 以上	10 件 以上	10 件 以上	100 件 以上



図6-27 汚泥掻き寄せ機の詳細調査状況写真

② 污水管への浸入水対策

1) 污水管への浸入水対策の実施

分流式下水道においては、雨水管の誤接続や污水管の劣化箇所からの浸入水などにより、雨水が污水管に流れ込む「雨天時浸入水」が全国的に問題になっています。当市では、効果的かつ効率的な対策及びその計画を立案するための基本的な考え方を定めた国土交通省策定の「雨天時浸入水対策ガイドライン(案)」に基づき、雨天時浸入水対策を進めています。

2015年から浸入水が多い地域を特定するための絞り込み調査を実施しており、現在は、雨天時浸入水の多い地域において、浸入箇所を特定するための TV カメラ調査、送煙調査、目視調査などによる詳細調査を実施しています。

詳細調査により、污水管の劣化が確認された箇所については計画的な修繕を計画するとともに、雨どいなどの宅内の排水が誤接続している箇所については改善の指導を実施しています。

表6-12 浸入水対策事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	10.6	10.9	11.3	11.6	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	11.9	103.9

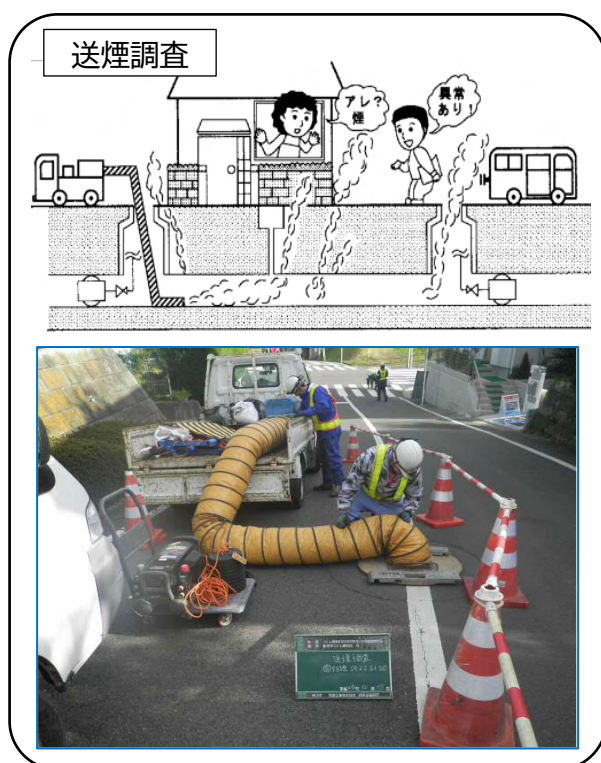


図 6-28 浸入対策の調査の様子(送煙調査)

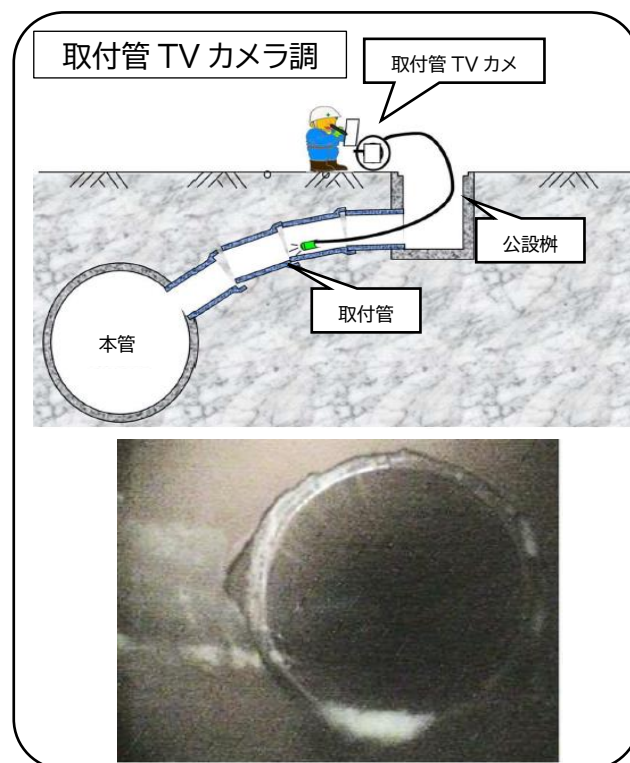


図 6-29 浸入対策の調査の様子(取付管 TV カメラ調査)

③ 地理情報システムを用いた維持管理情報の一元管理

1) 地理情報システムを用いた維持管理情報の一元管理

従来、点検記録や修繕履歴などの維持管理情報は、紙や CD など個別に管理・保存されていました。そこで、地理情報システム(GIS)を更改し、新たにデータ取込み機能を追加したことで、職員が点検記録や修繕履歴などの維持管理情報を容易に GIS に取り込むことが可能となりました。これにより、点検結果や修繕状況を即座に把握することができ、効率的な維持管理を実現できるようになりました。今後は、過去に紙で保管されていた維持管理情報も順次 GIS に取り込むことで、情報量を充実させ、より効率的な維持管理の実現を目指していきます。

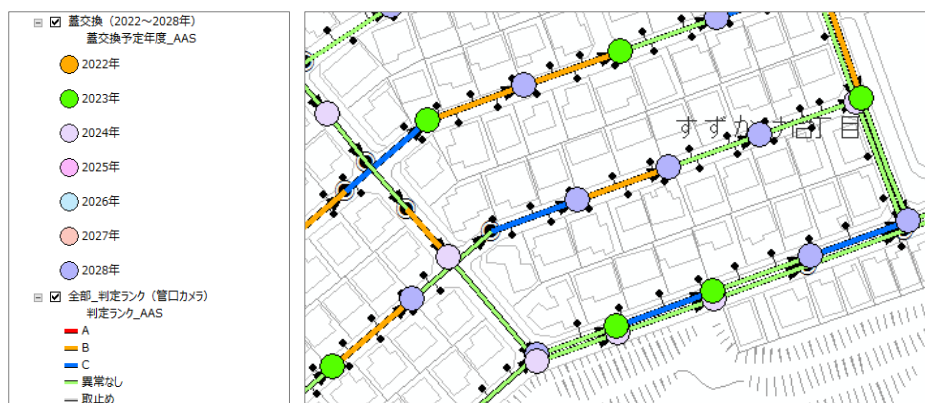


図6-30 GISによる維持管理情報の表示

<原稿案（第6章）>

④ 民間活力の導入

1) 民間のノウハウの活用

2023年に国が示した「PPP／PFI推進アクションプラン」では、コンセッション方式(レベル4)への段階的な移行を見据えた、管理・更新一体マネジメント方式(レベル3.5)以上の導入拡大を目的としています。

また、ウォーターPPPは、「長期契約(原則10年)」「性能発注」「維持管理と更新の一体マネジメント」「プロフィットシェア」などの要件があり、これら全てを充足する民間委託の実施が求められます。

現在の町田市下水道事業で実施している委託レベルは、下水道管や下水処理場における日常点検や運転監視などを単年度・仕様書による発注を行うレベル1です。

レベル3.5以上を目指すには、これまでの下水道事業の運営体制から大きな転換が必要となります。導入の検討を進めるにあたり、先進自治体での導入事例を参考に、これまでの下水道事業サービスの維持・向上を図るとともに、災害発生時に緊急対応が適切にできる体制の維持・確立が必要となります。また、導入後も新たにモニタリング業務が必要となるため、職員の技術力に応じて段階的に進めます。

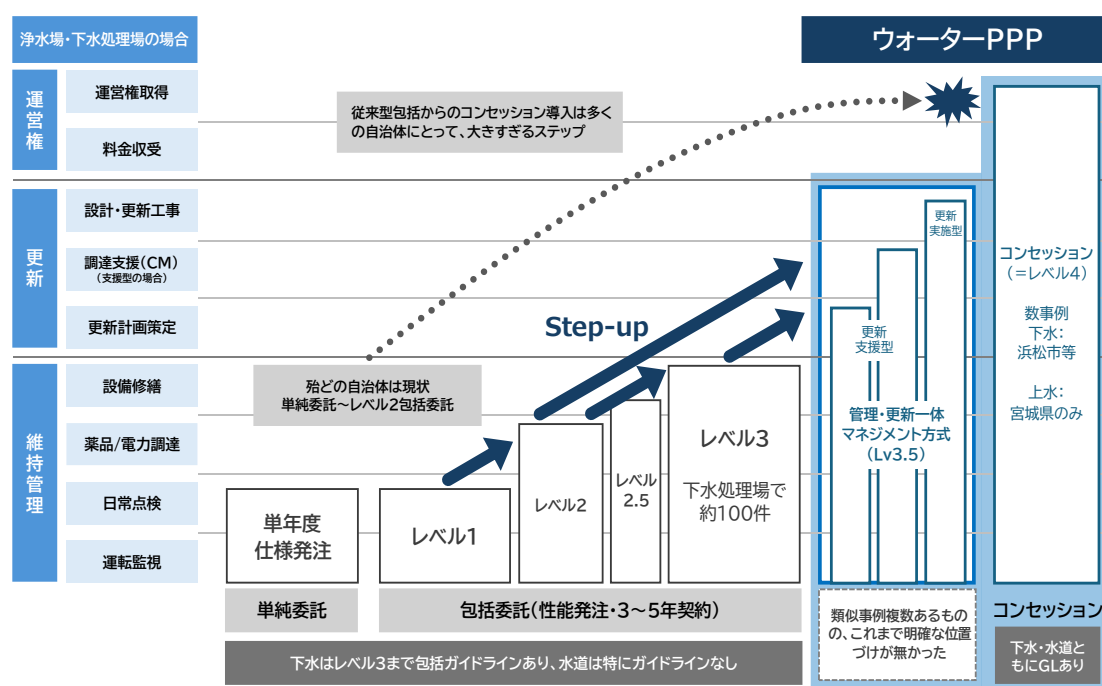


図6-31 ウォーターPPPのレベルイメージ図

(2) 計画的な改築更新

① 「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新

1) 管渠の改築更新

「町田市ストックマネジメント計画」に基づき、点検・調査の結果をもとに改築計画を策定し、污水管・雨水管それぞれの劣化状況を踏まえ計画的な改築更新を実施します。

管渠の改築更新は、管渠の内面を樹脂等で覆い修復する更生工事と、道路上を掘削して古い管渠を新しい管渠に入れ替える布設替え工事があります。

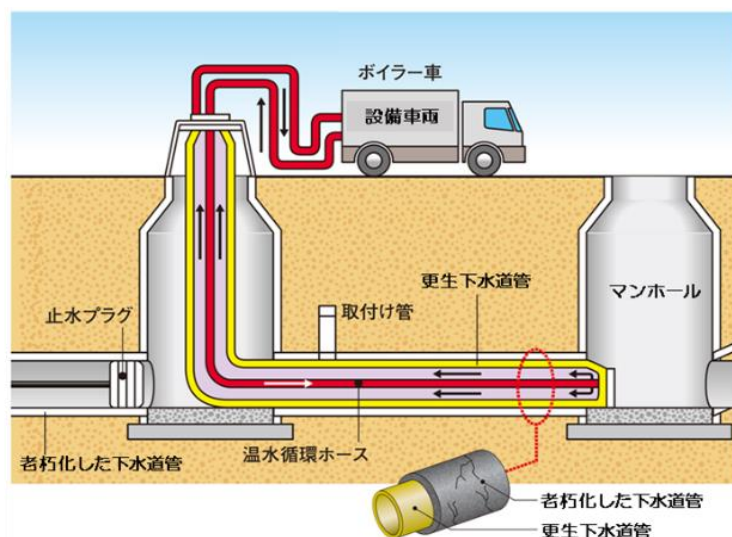


図6-32 下水道管の更生工事のイメージ図(一例)



図6-33

左: 更生工事前のコンクリートが劣化した下水道管

右: 更生工事後の下水道管

<原稿案（第6章）>

表6-13 污水管の改築更新事業費と工事延長

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万)	42	27	555	556	286	41	23	454	454	476	2914
污水管	詳細調査 (km)	12.7	0.0	0.0	0.0	10.9	10.9	0.0	0.0	0.0	45.8
	実施設計 (km)	0.0	3.2	3.2	1.4	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4	15.6
	改築工事 (km)	0.0	0.0	3.2	3.2	1.4	0.0	0.0	2.4	2.4	15.0

污水管については2025年度までで9.8km改築工事完了。

表6-14 雨水管の改築更新事業費と工事延長

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万)	794	717	0	17	593	1020	955	0	0	50	4146
雨水管	詳細調査 (km)	22.8	0.0	0.0	0.0	9.3	9.3	0.0	0.0	0.0	51.1
	実施設計 (km)	2.6	0.0	0.0	1.8	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	12.6
	改築工事 (km)	2.6	2.6	0.0	0.0	1.8	3.2	3.2	0.0	0.0	13.4

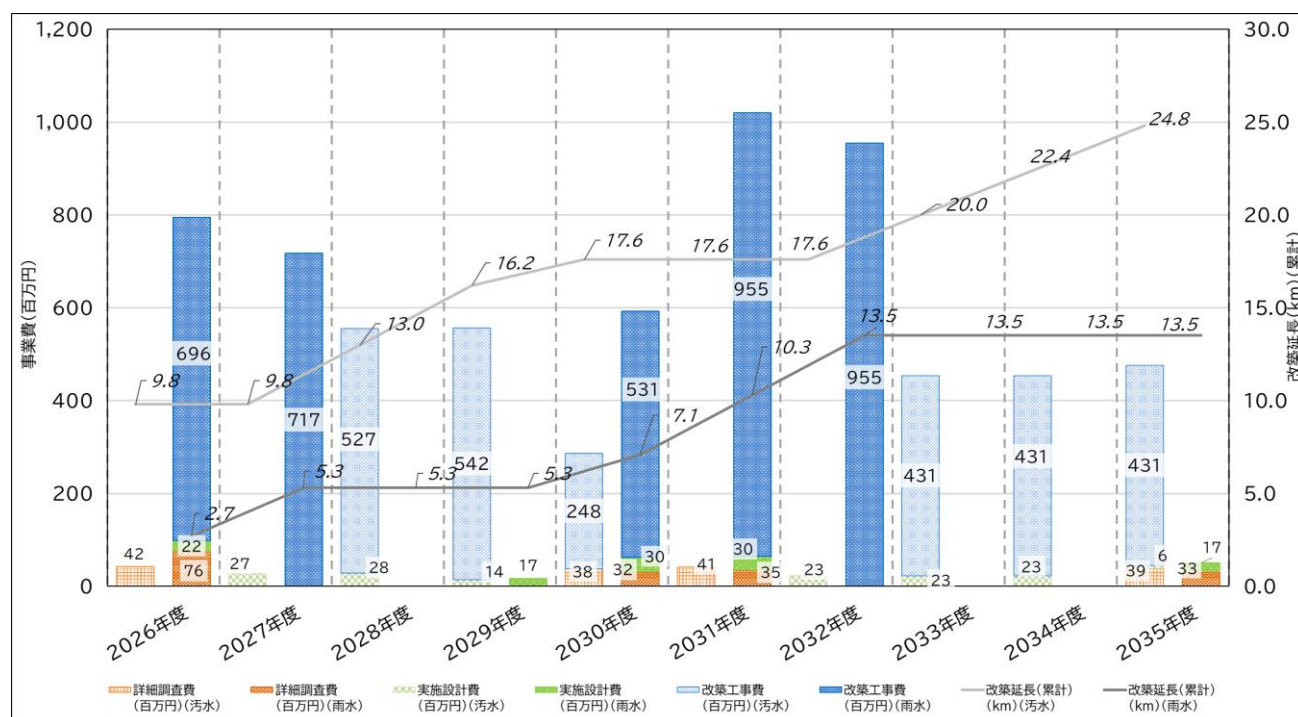


図6-34 污水管・雨水管の改築更新事業費と工事延長

<原稿案（第6章）>

2) 下水処理場・ポンプ場の改築更新

「町田市ストックマネジメント計画」(P.〇〇参照)に基づき、各施設(成瀬クリーンセンター・鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場)において下記のとおり改築更新を実施します。

表6-15 下水処理場・鶴川ポンプ場の主な設備改築更新工事

年度			2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
町田市ストックマネジメント計画			第Ⅱ期	第Ⅲ期					第Ⅳ期			
			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
成瀬 クリーンセ ンター	改成-1	沈砂池設備						改築工事				
	改成-2	揚水設備										
	改成-3	水処理設備		改築工事					改築工事		改築工事	
	改成-4	汚泥処理設備	改築工事			改築工事						
	改成-5	汚泥焼却設備	改築工事									
	改成-6	電気設備								改築工事		
鶴見川 クリーンセ ンター	改鶴-1	沈砂池設備				改築工事						
	改鶴-2	揚水設備	改築工事									
	改鶴-3	水処理設備										改築工事
	改鶴-4	汚泥処理設備						改築工事				
	改鶴-5	汚泥焼却設備										
	改鶴-6	電気設備			改築工事							
鶴川ポンプ場	改ポ-1	電気設備	改築工事									

<原稿案（第6章）>

表 6-16 成瀬クリーンセンターの改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	523	1,208	1,642	280	1,022	491	1,009	1,297	997	1,237	9,706

表 6-17 鶴見川クリーンセンターの改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	171	406	310	869	862	897	564	68	78	330	4,555

表 6-18 鶴川ポンプ場の改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	54	249	0	0	0	0	0	13	23	0	339

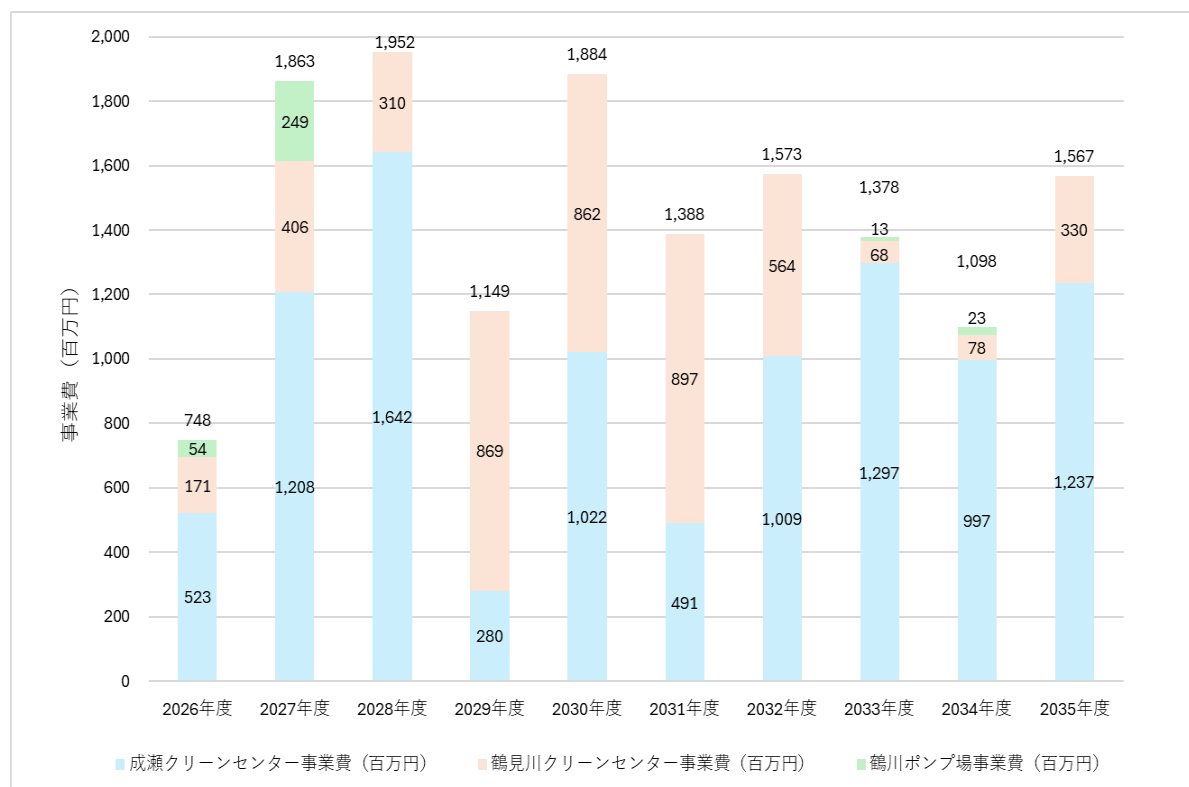


図 6-35 成瀬クリーンセンター・鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の改築更新事業費

<原稿案（第6章）>

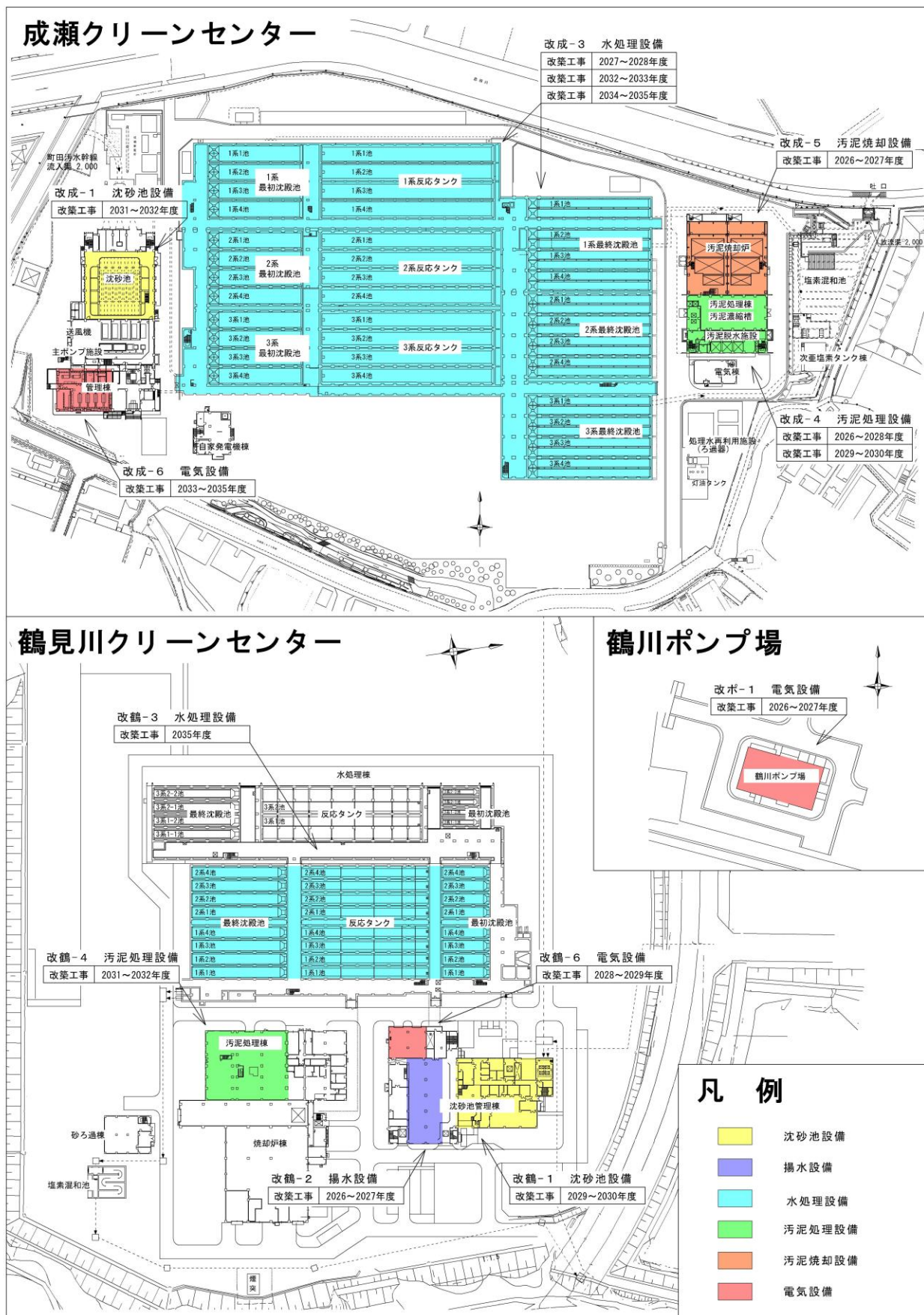


図6-36 下水処理場・鶴川ポンプ場の主な設備改築改新工事実施箇所

(3)持続可能な下水道財政基盤の確立

① 資産の有効活用

1) 資産の有効活用

限りある下水道資産を効率的・効果的に活用し、収益化していくことは下水道事業の経営の観点からも非常に重要な取組みです。一方で取組みを進めるにあたり、社会情勢や環境の変化により定期的な見直しが必要となります。

これまで取り組んできた事例の評価・検証を行い、その成果を基に新たな事例を検討し、資産のさらなる活用を推進します。